

踊るパスワード ～Behind the Buzzword(10)ブロックチェーン(4)：

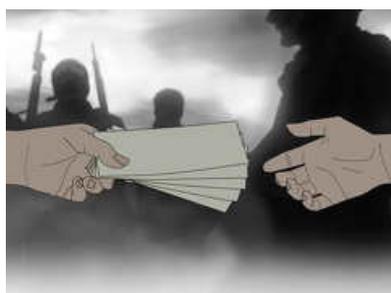
反逆の通貨「ビットコイン」を使ってみた

<https://eetimes.jp/ee/articles/2101/28/news047.html>

ブロックチェーンを理解するための手掛かりとして解説してきた「ビットコイン」。今回は、残件となっていた「ビットコインを実際に使ってみる」という実証実験の結果を報告します。ビットコインを1ミリも信用することができない私にとって、これは最初で最後の実証実験となるでしょう。

2021年01月28日 11時30分 更新

[江端智一, EE Times Japan]



「業界のトレンド」といわれる技術の名称は、“パスワード”になることが少なくありません。“M2M”“ユビキタス”“Web2.0”、そして“AI”。理解不能な技術が登場すると、それに“もっともらしい名前”を付けて分かったフリをするのです。このように作られた名前に世界は踊り、私たち技術者を翻弄した揚げ句、最後は無責任に捨て去りました——ひと言の謝罪もなく。今ここに、かつて“AI”という技術は存在しない」と2年間叫び続けた著者が再び立ち上がります。あなたの「分かったフリ」を冷酷に問い詰め、糾弾するためです。⇒[連載バックナンバー](#)

世界有数の入手困難な通貨

[前回のコラム](#)で、「天皇制は与信システムである」と、通貨についてのレクチャーをして頂いた、「地域通貨研究のプロ」の主任研究員のMさん、通称『通貨フリークのMさん』から教えてもらったことの一つに、

—— 日本円は、世界有数の入手困難な通貨

が、あります。

Mさん：「江端さん。私たちが、勤め先以外のところから、日本円をもらう機会ってありますか？」

江端：「……そういえば、「ない」ですね。確かに、私が勤務している会社がメインルートです」

借金は返済とセットで考えれば「日本円を入手した」とは言えませんし、競馬、競輪、パチンコ、宝くじは、胴元が利益を得られるように設計されている以上、むしろ「日本円を手放す」ために存在している、と言えます。

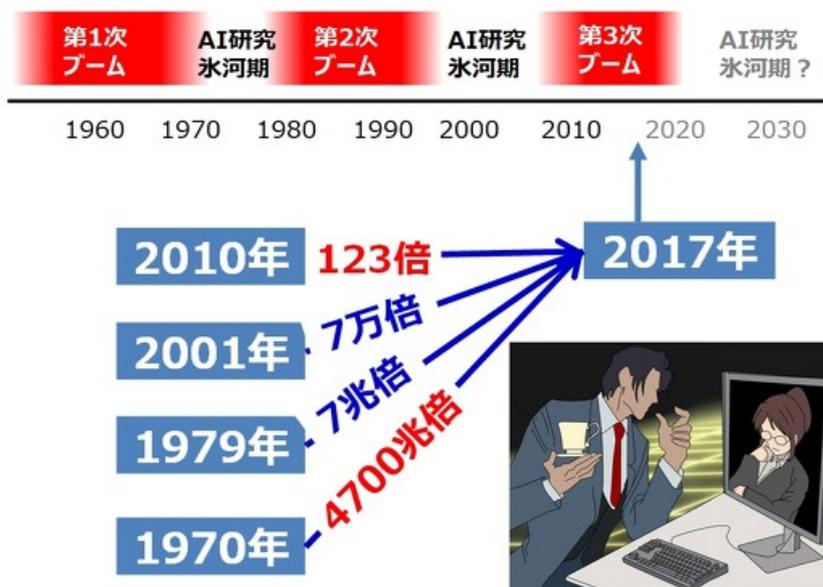
しかし、単純に、パソコンやスマホや各種のITサービスだけを考えても、私たちの生産性^{*} —— という言葉を使うのには抵抗があるのですが —— 例えば、(1)エクセルによる計算量の増加、(2)ワードによる報告書の量産、(3)「乗り換え案内サービス」による時間短縮、などを考えてみても、私たちの毎日の“生産性量”(×“生産性”)は増えています —— 「爆上げ」といってもいいくらいです。

*) 関連記事：[誰も知らない「生産性向上」の正体 ～“人間抜き”でも経済は成長？」](#)

もっとも、この「爆上げ」の理由は、主にコンピュータの能力によります。

既出:コンピュータはどれだけ頭が良くなった？

「頭の回転速度が2倍になって、記憶力が2倍になったら、
『4倍(2x2)頭が良くなる』という単位」を導入したら
こうなった



出典:「[うちにやってくる人工知能 ~ 国家や大企業によるAI技術独占時代の終焉](#)」

だとしても、私たちだって、このコンピュータ(というかパソコン)の能力についていくために、結構な苦勞をさせられてきたはずですよ。

- 完成直前の報告書の作成中にフリーズするワードやエクセル
- 意味もなくバージョンアップしてメニューやボタンの位置を勝手に換えるMicrosoft社のオフィススイート
- 普段の仕事で何の不都合も感じていないのに、一方的にサポートの打ち切り宣言をして、セキュリティを人質にして移行を迫るWindows OS(*)
- マルチOSで動くことを謳いながら一度もまともに動いた試みのないDocker
- 機能のパーツ化で「簡単構築」を謳いつつ、そのパーツが1個動かないだけで、システムが一向に動き出さないAWS (Amazon Web Service)
- 音声映像のどちらからが必ず問題となり、いつも開始時刻に始まらないリモート会議システム

etc, etc……

—— ねえ、みんな！ なんで、そんなにお行儀いいの？ 私たちは、もっとコンピュータに当たり散らしてもいいと思うんだけど!!

なるほど、生産量は、コンピュータに因るものかもしれませんが、そのコンピュータの能力を發揮させる為の私たちの努力や苦勞は、正しく反映されていないと思います。コンピュータなんぞ、私たちがいなければ、「タダの箱」なんですから。

でも、こんなに苦勞しているのに、給料上がっていませんよね。もう絶望的なデフレの世界にドブクリつかり続けて、はや20年以上 —— 変だと思いませんか？

「通貨がないなら作ればいいじゃない」

Mさん:「江端さん、それは簡単な話です。日本円の流通量が絶望的に少ないからです」

江端:「え？ そういうことですか？ だったら、日本円をもっと増刷しまくれば、いいじゃないですか？」

Mさん:「法定通貨は、流通量をコントロールすることで、その価値を調整できます。いわゆる需要と供給の関係です」

江端:「はあ……」

Mさん:「つまり、日本円は流通量を抑え続けることで、世界中の人にとっての憧れの通貨、世界最強クラスの国際通貨として君臨し続けているのですよ。これは、世界のどこかで革命やら暴動やら政変が発生したら、即、日本円が買われて、円高になることから明らかですよ」

江端:「じゃあ、私たちが、『完成直前の報告書や数値入力中にフリーズするワードやエクセル』で死ぬほど苦労しているのは、誰もが簡単に入手できないくらい円の価値を上げるためですか?」

Mさん:「おおむね、その理解で正しいと思います。だからこそ「ビットコイン」なんですよ」

江端:「……?」

Mさん:「『生産量が2倍になったなら、通貨も2倍にする』ということです」

江端:「あ……つまり、『通貨がないなら、通貨を作ればいいじゃない*)』ということですか?」

*) 1755年に処刑されたフランス国王の王妃を思い出させるフレーズです(俗説らしいですが)。

Mさん:「私には、ビットコインが、生産性を正しく反映しない法定通貨の運用管理者(国家権力)に対する、民衆の反乱に見えるのですよね」

反逆の通貨「ビットコイン」—— なに、それ、かっこいいい。

ビットコインを擬人化したラノベ、アニメ、コミック*)、誰か創作してくれないかな。

*) アニメ「[はたらく細胞](#)」マンガ「[うちのトコでは](#)」など

「ビットコイン」と「法定通貨」が、株、社債、国債等の「債権」を巻き込んで、マーケットというフィールドで死闘を繰り広げる—— うん、私なら本の表題だけで即購入します。

ビットコインがどえらいことになっている

こんにちは。江端智一です。

今回は、「[踊るバズワード ~Behind the Buzzword](#)」の「ブロックチェーン」シリーズの第4回です。

今回は、ビットコインに関して残っていた宿題「ビットコインを買って、使ってみました」の実証実験について報告致します。

実は、今回からはビットコインの話から離れて、本格的にブロックチェーンの話に移行する予定だったのですが、この実証実験の内容が予想を超えたページ数になってしまいました(当初予定は、2~3ページくらい)。

編集担当のMさんから、「ビットコインの実証実験のところで、いったん区切りましょう」と提案されて、今回のコラムは当初の前半を記載しています。

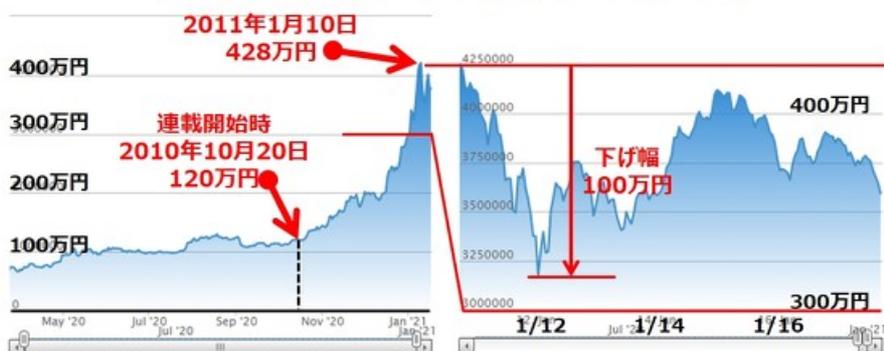
読者の皆さんから、これまで散々「江端のコラムは長い」「疲れる」「終わらない」と批判され続けてきました。これを受けて、江端が心を入れ替え「読者の皆さんが読みやすくなるように、コラムを短くするようにした」—— などということは絶対にありません。今回は例外です。決して油断しないでください。

□

さて、ビットコインの単位は、1BTCですが、実際には、0.00000001 BTC(1 Satoshi)単位で購入できます。ですので、今のレートで言えば……と思いき、ことし(2021年)のビットコインの法定通貨とのレートを調べてみたのですが、今、ビットコインがエライことになっているみたいです。

最近のビットコインのレート

実証実験に少額購入したかったが・・・
ものすごく「怖いもの」を見た気がする



正直、あまり手を出したくない

これを言語化するのであれば、『観測史上最大級の台風を、自宅のリビングの窓から見ている』ような感じでした —— どす黒い空、バケツをひっくり返したかのような豪雨、決壊する河川、退去命令が出されるダム下流の市町村、根本から引き倒される木々、目の前を一瞬ですれ違う樹木の枝葉、玄関からひたひたと入ってくる水……

こんな中で、外出する奴がいたら、そいつは本物のバカ —— とは思ったのですが、私は焦りも感じていました。

—— ビットコインが存在している内に、実験を完了させなければ

と。

まあ、ちょっと心配が過ぎることは分かっているのですが、「下げ幅100万円」とかをリアルタイムに見せつけられたら、そんな気持ちにもなります(本当)。過去のデータをグラフで見るとは、まったく違った景色に見えます。ビットコインを1 Satoshi(0.00000001 BTC)すら持っていない私ですら、怖かったのですから、大量に所有している人の恐怖は計り知れないでしょう。

それはさておき —— まずは、ビットコインが使える店舗探しから始めましたが、こんな作業が必要であることかして、現時点では、ビットコインが“通貨”として、世間で使いものになっていないことは明らかです。

自宅から最も近くで使える店舗は、駅まで歩いて20分、そこから電車で30分、さらにそこから徒歩で5分のところにある「ビックカメラ」でした(私はこれを知った時、『この実験は、今回を最初で最後にする』と決意しました)。

果てしなく面倒くさい登録手続き

ビックカメラの[ホームページ](#)には、「ビットコイン決済は、bitFlyer社のシステムを利用しています。ご利用には取引所での口座開設等が必要です」と記載されていました。

『“貨幣”を使うのに、“システム縛り”かよ』と、初っぱなからガッカリしましたが、もう、ここは黙って記載されている通りに手続きを進めました。

bitFlyerのアカウントの作り方

まあ、この辺までは普通のアカウントの作り方



ブラウザ、メーラー、スマホと慌ただし

まずBitFlyer社のホームページの「無料アカウント作成」ボタンを押下して、メールアドレス等を入力すると、アカウント登録メールが届きます。そこに記載されているURLをクリックすると、パスワード設定画面が出てきて、それを入力すると、今度はスマホに数字列が飛んできますので、それをホームページから入力します —— まあいわゆる窓口口座のようなものを作るのですから仕方がないことですが —— 実に面倒くさい。

“変顔”を求められる個人認証

次に個人情報の入力です。

各種個人情報の入力

この辺をいい加減に記載すると、再提出くらって、2~3日無駄にするので注意

The left screenshot shows the '二段階認証設定' (Two-step authentication settings) page. It has checkboxes for 'ログイン時' (checked), '外部アドレスの登録時', '日本円の入金時', and '仮想通貨の外部送付時 (必須)'. A '設定する' button is at the bottom.

The right screenshot shows the 'ご本人様情報' (Personal information) page. It includes fields for 'ご住所' (Address), '居住国' (Country, set to Japan), '郵便番号' (Postal code), '都道府県' (Prefecture), '市区町村' (City/Town/Village), and '建物名・部屋番号' (Building name/Room number).

私、個人情報の入力をする時には、いつでも特殊な記載をして、個人情報が流出した時の流出元が特定できるような、姑息な「ひっかけ」を仕込んでいるのですが、今回、(後述する)運転免許の記載内容と照合されて、記載不備で再提出を指示されました。

つまり人間の目によるチェックも行われているようなので、入力事項は正確に記載した方が良いです(2~3日ほど、無駄になります)。

興味深かったのは、個人認証でした。

本人の承認方法

承認完了までには2~3日かかるみたい。気長に待つ

スマホをかざして、部屋の中で“変顔”させられた

最近のリモート認証って…いろいろ大変なんだなあ

個人認証するのに、郵送会社の人にやってもらおうという選択肢のあったようなのですが、5日後になるとのことだったので、「クイック本人認証」というのを選びましたが — これが、なかなか面白い。

スマホで、運転免許証の写真の撮影を指示されるのですが、スマホ画面の中にフレームの枠線が出てきて、そこにピッタリ収まるようにアングルを決めるように求められ — きちり決まらないと、スマホがOKを出してくれません。

さらに、運転免許証を斜め上から撮影する写真を求められます。その際に、運転免許証を持つ指や持ち方まで指示されます。なるほど、運転免許証の実物(×印刷物)を持っていることの傍証にはなるでしょう。

本人の顔認証に至っては、正面写真だけでなく、顔を上に向ける動作や、横に向ける動作までも要求されます。これは写真(静止画)だけでなく、システムの方で連続写真(動画)として記録するためと思われます。

これも本人認証方式としては — やり方はとてもアナログですが — ただの証明写真よりは数段、認証能力が高いと言えます。

いずれにしても、午前4時に、自分の部屋でスマホに向かいながら、『変顔を何度も繰り返す父親の奇行なんぞ、年頃の娘たちや嫁さんに見せられないなあ』と、憂鬱(ゆううつ)な気持ちになりました。

さっそく5000円を買ってみた

次は、ビットコインを購入するお金の元となる銀行口座の登録です。

ビットコインの購入方法(1)

BitFlyerにお金を振り込む銀行口座を登録するが、さらに2日くらいかかった(申し訳ありませんが、銀行名等は開示できません)



私はネットバンク(ジャパンネットバンク)に口座を持っていますので、それを登録しました。この処理が完了したら直ちにBitFlyerのホームページから入金作業ができると思いましたが、大きな勘違いでした。この段階ではBitFlyerのシステムが「口を開けて入金を待っている状態」を作ったに過ぎません。

実際には、ジャパンネットバンクのホームページから、ジャパンネットバンクが預金者に提供しているトークンキーを使ってBitFlyerの指定口座に振込を行わなければ、BitFlyerのシステムには入金できませんので注意してください。



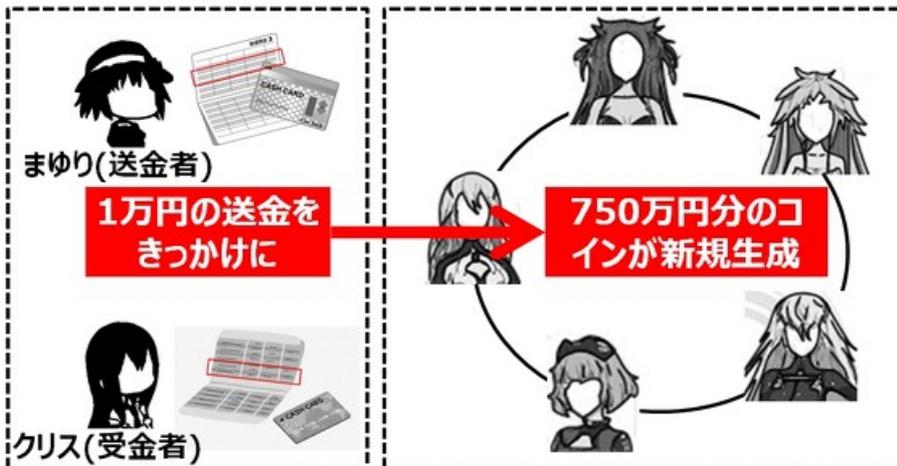
で、今回、私が入金したお金は5000円としました。“通貨”としての実験をするならこれで十分と考えたからです。私は、ビットコインを投資/投機対象の“暗号資産”として購入する意図は1mmもありません。私は(←ここ重要)ビットコインを1ミリも信用することができない人間だからです。理由は、これまでの3回の連載で、山ほど述べてきましたので、割愛させていただきます*)。

*) ちなみに、私は「ビットコインを信用している人」をディスるつもりはありません。「ビットコインを信用する」のロジックにも十分な説得力があります。これは「好み」の問題です。

ちなみに — 私が入金した瞬間、世界のどこかで、私の決済のおかげで、6.25BTC、750万円……いや、今、あの時よりもレートが上がっているので、今なら2200万円分相当のビットコインを手に入れた人間がいる訳です — 不愉快な気分です。1%くらい私によこせ、と言いたい。

既出:ビットコインにおける「送金」の意義

ビットコインの価値の根拠は「バトルを勝ち抜いたこと」



送金は、6.25(=750万円)のビットコインが生成されるための単なる「口実」

出典:「[ビットコインの正体 ~電力と計算資源を消費するだけの“旗取りゲーム”](#)」

ビットコインの購入方法(2)

5000円だけBitFlyerに預け、全額ビットコインを購入

5000円全部つっこんで、ビットコインが3700円分しか購入できなかった

ところが、5000円全部をビットコインの購入に割り当てたのですが、購入できたビットコインは3700円分だけでした。手数料に1300円を取られた、ということだと思います(まあ、そんなもんかな、と思っていますが)。

決済方法が見当たらない

さて、これらの手続きが終わって、「ビックカメラ」への遠征(往復2時間以上、電車賃440円)を控えた前夜、私はYouTubeで支払い方法の予習をしていました — スマートかつエレガントに支払いを行いたかったからです。レジの電

子決済で、あたふたするなんぞ、ITエンジニアとしてはこれ以上もない恥です。

しかし、BitFlyerのホームページのどこを探しても、決済用のQRコードリーダーのメニューが見つかりません。なんでないの？ YouTubeにも説明用画面にもFAQにも、そのような記載を見つけられませんでした(本当)。

2時間後、ようやく、スマホの専用アプリをインストールする必要があることが分かりました。

—— “システム縛り”に加えて、さらに“アプリ縛り”かよ*).

*)ブラウザでもQRコードリーダーは作れます(自作したことがあります)

と思いましたが、文句を言っても仕方ありません。Apple StoreからbitFlyerのiPhoneアプリをインストールして、QRコードのスクリーン画面が起動することを確認しました。

ビットコインで支払う方法(1)

ここからは、スマホの独壇場。スマホにアプリをインストールしないとビットコインで買物できない

アプリ(×スマホのカメラ)のQRコードリーダーを使うこと

ビックカメラに行っても欲しいものがなかった私は、次女(高校3年生)に「撮影助手するなら、ビックカメラで何でも買っ
てやる。ただし、3700円までのものに限る」といったら、次女はホイホイと付いてきました。

彼女は3260円のワイヤレスマウスを提示して、私はそれを持って、レジに並びました。そんでもって、私はレジの女性の方
と、なかなか印象的な会話をすることになります。

江端:「では、このマウスを。支払いはビットコインをお願いします」

レジの女性:「は？」

江端:「ビットコインで」

レジの女性:「“ビックコイン”ですか？」

なんだ、その“ビックコイン”とやらは。知らんわ、そんなもん。

江端:「“ビ・ット”コイン!」

と大きな声でいったら、そのレジの女性は、持ち場を離れて誰かに相談しに消えてしまいました。私は、この時、実感しました。

―― ビットコイン……ないわー

と。

ビットコインで支払う方法(2)

スマホアプリを使ってQRコードを読み取るだけ



店員:「は？ …”ビクク”コインですか？」
江端:「いえ”ビット”コインです」を3回リピート

別の店員さんが、レジに設置されているスマホ(?)にQRコードを表示して、それを、私のスマホにインストールされたbitFlyerのアプリのQRコードリーダーで読み込むことで、支払いが完了しました。

決済のタイミングは1秒くらいだったと思います。(使ったことはありませんが、多分)PayPayと同じ仕組みだと思います。決済の時間はSUICAなどの電子マネーと大差ありませんでした。

でも、これって変です ― ビットコインは、その仕組み上、この10分間を短縮できないはずなのです。

ビットコインは決済に10分間(私の試算では9.6分間)かかるはずなのです。これはビットコインシステムのコアです。これは「技術で高速化できる」というものではなく、コンセンサスアルゴリズムの機能要件から絶対に必要な10分間なのです(関連記事:[「ビットコインの運命 ~異常な価値上昇を求められる“半減期”」](#))。

既出:シミュレーション結果から見た全体像

実データと比較しながら、 シミュレーションのパラメータを補正してみた

| # | 項目 | 公称 | シミュレーション結果 (チューニングを含む) |
|---|--------------------------|--------------------------------------|----------------------------------------------------|
| 1 | 1ブロックの発掘に調整されている時間 | 10分 | 9.6分 |
| 2 | 半減期に至るまでのブロック数と期間 | 21万ブロック (3.99年) | 21万ブロック (3.83年) |
| 3 | 2100万ブロックに至るまでの半減期の回数 | 理論的には100回 (2100万ブロック ÷21万ブロック) | 1Satoshi= 0.00000001BTCで、 桁落ちしてしまうまで、 34回 |
| 4 | 2100万ブロックに至る年 (ラストデー) | 理論的には、 西暦2408年 (388年後) | シミュレーション上では、 2139年3月24日 (119年後) |

出典:「[ビットコインの運命 ~異常な価値上昇を求められる“半減期”](#)」

もし1秒で決済ができてしまうなら、ビットコインの半減期は600倍まで短縮されることになります。そうなると、ビットコインのラストデーは119年後どころか、72日後になってしまいます。

で、ちょっと調べてみた結果、この時間の短縮をしてくれているのがbitFlyer社のプラットフォームのようです。

「加盟店と消費者間の支払いはbitFlyer社のプラットフォーム内で完結し、料金前払いのデポジットで支払う」との[記載がありました](#)。つまり、空白の10分間をbitFlyer社が担保してくれているというわけです。その担保金が、前述した1300円分ということなのでしょう。

□

では、今回の実証実験のレポートを提出します。

(1)総括:なんか、想像していたのと違う

(2)具体的内容:(a) bitFlyerという決済会社のホームページやアプリ縛りだし、(b) その決済会社と連携しないと支払いできない仕組みができていて、(c) ビットコインの取り扱い店舗の店員が「ビットコイン」を知らないし、(d) ビットコインの基本性能を決済会社のプラットフォーム側でサポートしている

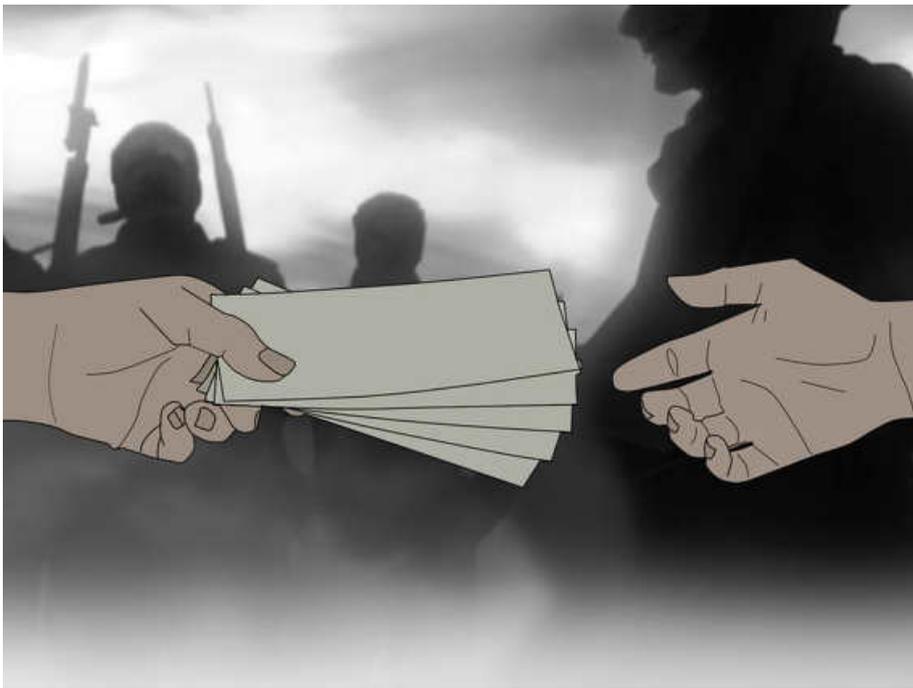
(3)結論:他の電子マネー決済と比べて、使い勝手にこれといった差はなかったが、ホームページでの登録手続きは壮絶に面倒くさかった

(4)その他:決済会社を通さない利用方法がないか調査中であるが、少なくともビックカメラでは、bitFlyer社のシステムが必須。なお、日本円との交換を行うためには、認定された決済会社が必要である

「これが自由な通貨?これなら、Amazonギフト券(額面指定できる)と大差ないじゃないか」と思ったのは事実です。

もっとも、インターネットにしても、キャリアやインターネットプロバイダーとの契約にもとづく支払いをしていることは、bitFlyerにお金を払い込むことと同じことだろうと言われたら、まあ、その通りです。

もっと言えば、私たちは、「便利な日本円」を使う環境のために、生涯収入の4分の1~2分の1程度のお金を税金として取り立てられて、その一部が“[暴力装置\(警察や自衛隊\)](#)”の運用に使われているわけですが、日本円を使うために「日本国」という決済会社にお金を払っているのと同じことです。



それにしても、「仮想通貨と違って、法定通貨(日本円)って、本当に使い勝手がいいよなあー」と実感しています。

□

実験終了後、bitFlyerのアカウントを消去しようと思ったのですが、毎日ビットコインのレートを送付してくれることと、bitFlyerのホームページの「レート変動」を眺めているのが — 特に、「値下がりしている時の”bitFlyer Lightning”の様子」をアラート音付きで見ていると、ネットの向こう側の阿鼻叫喚が聞こえてくるようで — とっても楽しい。



というわけで、まだアカウントは消さないで、時々、リアルタイムの取引を眺めています — うん、自分でも自分のことを『最低な奴』と思います。

編集担当からのお知らせ

前編は、ここまでとなります。後半は、近日中に公開予定です。選挙や結婚に「ブロックチェーン」を導入したら、どうなるのか — いつもの「江端節」がさく裂します。原稿の長さも期待を裏切りません。

「前編、最高です。拍手喝采です」

後輩:「それじゃあ、なんですか? 『私のコメントはいらない』って、そう言いたいんですか?」

江端:「いや、そうじゃない。2回もレビューしてもらって、コメントさせたら申し訳ないという、EE Times Japan編集部と私の配慮であってだな……」

後輩:「いや、そんな配慮は不要です。江端さんがなんと言おうが、私は言う。コメントする」

江端:「……では、お願いします」

後輩:「では言いましょ。江端さん、今回の前編、最高です。拍手喝采です。素晴らしいです」

江端:「……お、おう。……ありがとう」

後輩:「江端さんの今回のコラムこそが、私たち研究員のあるべき姿ですよ —— まずは使って試せ。そして感じろ。能書きはその後だ —— です」

江端:「うん、まったくその通りだと思う。位置情報サービスの研究をやっているくせに、スマホの位置情報アプリを使ったことがないとか……*)、本当に「笑わせるな!」と言いたくなるような、「自称研究員」が多くてうんざりだ。特にシニアに多い」

*)参考:[筆者のブログ](#)

後輩:「そういえば、私たちは、公開鍵暗号方式やLinuxのカーネルなどのソースが公開されれば、すぐに自分のパソコンでコンパイル、ビルドして試していましたよね」

江端:「最近は、『数理解析ソフトは、どれがお勧めですか?』とか尋ねてくる若い研究員も多い。『ものぐせさんと、自力で全部のソフトを試さんか!』と怒鳴りつけるのをこらえているよ」

後輩:「今回、江端さんはビットコインの開始から使用まで、一通り、やり通しました。一方、ビットコインについて、ポジティブであれネガティブであれ、偉そうに論じているやつらの、一体何人が、ここまでキッチリ試したのか、怪しいものです」

江端:「人数は少ないと思う。参考になる記事、ほとんどなかったから。ビットコイン決済をするのに、専用アプリが必要ということも、全く分からなかったくらいだ。ともあれ、ビットコインを実際に使ったこともない奴が、ビットコインの論文を量産しているのかと思うと、正直、腹が立つ」

後輩:「というか、その情報量の少なさこそが、ビットコインが“決済手段”として使われていない証拠でしょう。要するに、ビットコインは、もはや“通貨”としての利用価値はなく、“暗号資産”としての価値しかないのでしょうか」

江端:「まあ、ビットコインの取り扱い店舗の対応が、“あれ”ではねえ……」

□

後輩:「ところで、ここだけの話ですが、年始めから現在に至る、ビットコインの乱高下 —— 仕掛け人は、江端さんですか?」

江端:「は?」

後輩:「いや、江端さんの過去3回のコラムを読み直してみると、江端さん、ビットコインの信用失墜に全力を注いでいたじゃないですか?」

江端:「逆だ! 逆!! 私は、ビットコインを、リアル世界の決済手段と切り離して、ネット世界の新しい決済手段として使いたいんだ。それはもう、何度も言ってきたじゃないか」

後輩:「そうです。だからこそ、私には、江端さんが、ビットコインの『グレート・リセット』を画策しているような気がして仕方ないんです」

江端:「3700円分のビットコインごときで、相場を操作できるか!」

後輩:「でも、江端さんならやりかねない、と思ってしまうんですね。なにしろ、江端さんの、『システムへの『ハッキング……』もとい、プライベートな改良』に関するネタには、事欠きませんからね」



Profile

江端 智一 (えばた ともいち)

日本の大手総合電機メーカーの主任研究員。1991年に入社。「サンマとサバ」を2種類のセンサーだけで判別するという電子レンジの食品自動判別アルゴリズムの発明を皮切りに、エンジン制御からネットワーク監視、無線ネットワーク、屋内GPS、鉄道システムまで幅広い分野の研究開発に携わる。

意外な視点から繰り出される特許発明には定評が高く、特許権に関して強いこだわりを持つ。特に熾烈(しれつ)を極めた海外特許庁との戦いにおいて、審査官を交代させるまで戦い抜いて特許査定を奪取した話は、今なお伝説として「本人」が語り継いでいる。共同研究のために赴任した米国での2年間の生活では、会話の1割の単語だけを拾って残りの9割を推測し、相手の言っている内容を理解しないで会話を強行するという希少な能力を獲得し、凱旋帰国。

私生活においては、辛辣(しんらつ)な切り口で語られるエッセイをWebサイト「[こぼれネット](#)」で発表し続け、カルト的なファンから圧倒的な支持を得ている。また週末には、LANを敷設するために自宅の庭に穴を掘り、侵入検知センサーを設置し、24時間体制のホームセキュリティシステムを構築することを趣味としている。このシステムは現在も拡張を続けており、その完成形態は「本人」も知らない。

本連載の内容は、個人の意見および見解であり、所属する組織を代表したものではありません。

Copyright © ITmedia, Inc. All Rights Reserved.

